

特集 2 第7回 皮膚科サマースクール2022を終えて

2 022年7月17～18日（日～月曜）に第7回皮膚科サマースクール2022を開催することができました。まずはこの場をお借りして、実行委員、講師、チューター、オブザーバーの先生方、さらには日本皮膚科学会事務局の皆さまにあらためて深謝申し上げます。昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のために全面ウェブ開催となり、現地開催に比べると実習や参加者同士の交流の面で難がございましたが、その分参加人数を多く受け入れることができたことは大きな成果でした。それを受けて本年度は初めてハイブリッド開催に挑戦することに決めておりましたが、直前にこれまでにない勢いで第7波が到来し、各自治体で過去最高の感染者数が計上される中、全国から医療従事者を集めることに大義があるのか、実行委員長として最後の最後まで悩まされました。ただ、天谷理事長のご配慮や多くの皆さまのご助力により十分な感染対策を講じた上での現地開催を含むハイブリッド開催に踏み切ったことで、長きにわたる自粛でこのような機会に餓えていた研修医のニーズに十分応えることができたと思っております。

初日のプログラムとしてはまずダーモスコピーを用いた実習で、実際に最新機器に触れるとともに非常に綺麗な画像をウェブ配信することができ、参加者にこのスクールの方向性を最初に体感してもらいました。続いて悪性黒色腫、白癬、フットケア、レーザー治療の分野でご活躍されている先生方に、最新の話題と我々皮膚科医自身が面白いと思っているポイントを解説いただきました。そして、疲れた頃に「皮膚科症例クイズ」で、笑いに包まれながらダーモカメラなど豪華な景品を目指して参加者同士の交流を深めてもらい、さらにQ and Aセッションでは匿名でアンケートや質問が可能なアプリを用いて、参加者からの本音の質問に多数答えることができました。プログラム終了後も、参加者からの個別の相談に全員で時間の限り対応しました。

2日目は我が国きってのエキスパートたちによる保険制度や皮膚アレルギー、皮膚科と研究の関わりについてのレクチャーから始まり、皮膚外科ワークショップでは手術が不安な参加者も、そしてウェブ参加者も縫合を楽しめるよう素晴らしいプログラムを考えていただきました。最後は全身性疾患との関わり、皮膚科専門医制度、研究や留学を含めたキャリアパス、皮膚科の魅力についてこのスクールでしか聞くことのできない内容のお話を各先生にご披露いただき、全てのプログラムを予定通り完遂することができました。

以上のように、全国から集まった熱意ある有望な研修医と交流できて我々皮膚科医も刺激を受けることができましたが、日本皮膚科学会がこのようなイベントを企画し、コロナ禍でリハーサルもままならない中で成功を収めることができたのは、実行委員、講師、チューター、オブザーバーが以前からさまざまな学会やセミナーと一緒に仕事をしてきた間柄であったからこそであり、他科にはなかなかみられない大学や病院の枠を超えた横のつながりの強さの賜物であると再認識することができました。今回参加した現地67名・ウェブ37名の研修医たちにも、このスクールで出会った仲間たちと一緒に次世代の皮膚科を担ってもらうことができれば、と大いに期待しております。



執筆者
第7回皮膚科サマースクール
2022実行委員長
神人 正寿
和歌山県立医科大学
皮膚科 教授



ウェブ参加者の
集合写真

1日目			2日目		
講師	現地参加	WEB参加	講師	現地参加	WEB参加
			五十嵐 敬之 先生	保険制度について	
			千賀 祐子 先生	皮膚アレルギー	
			木庭 幸子 先生	皮膚科と研究	
				休憩	
			浅井 純 先生 加藤 裕史 先生	皮膚科医ここがおもしろい 皮膚外科ワークショップ	イントロダクション 中継(総合実習) レクチャー 中継(縫合実習)
				休憩	
			山口 由衣 先生 石河 晃 先生	皮膚と全身性疾患のつながり 専門医制度	
			遠田 直子 先生	皮膚科医のキャリアパス	
			坂本 精一 先生	皮膚科の魅力～皮膚科ってこんな科～	
			多田 啓生 先生	研究会の模様	
			神人 正寿 先生	修了書授与・挨拶	スクリーンショット撮影
				集合写真	
				新千歳空港行バス 出発①(事前予約)	
				新千歳空港行バス 出発②(事前予約)	
				休憩	
				夕食	
				休憩	
				皮膚科Q&A	

スケジュール表



現地参加者の
集合写真